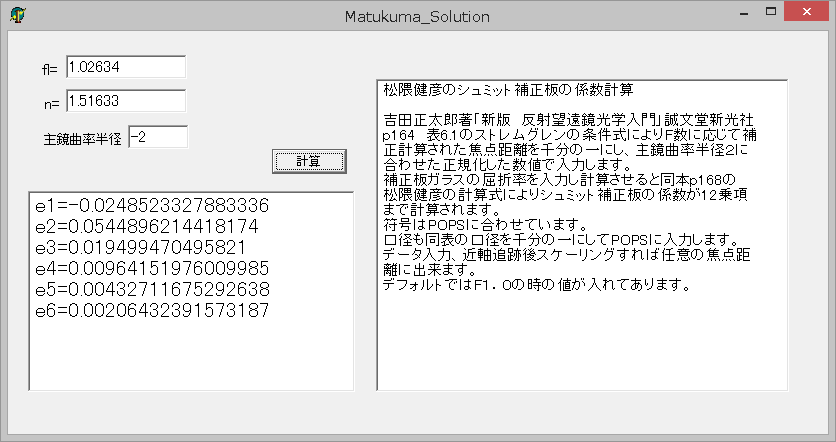
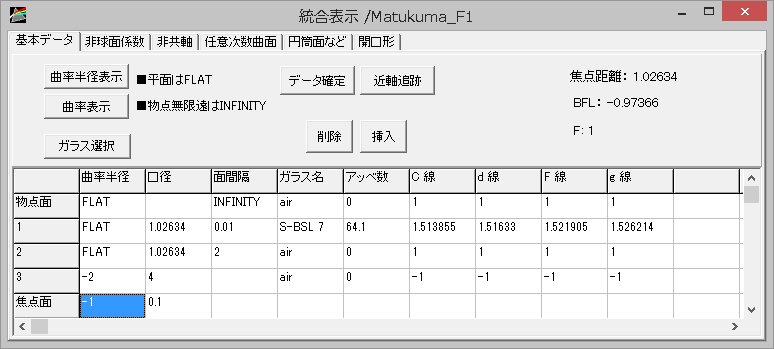
松隈健彦のシュミット補正板係数計算公式

　「松隈公式による補正板係数.exe」アプリは、文献1－「新版反射望遠鏡光学入門」吉田正太郎　誠文堂新光社　168ページ、文献2－「望遠鏡光学・反射編」吉田正太郎　誠文堂新光社　126ページに掲載されている、松隈健彦のシュミット補正板形状展開式の係数を求める公式をプログラムしたものです。

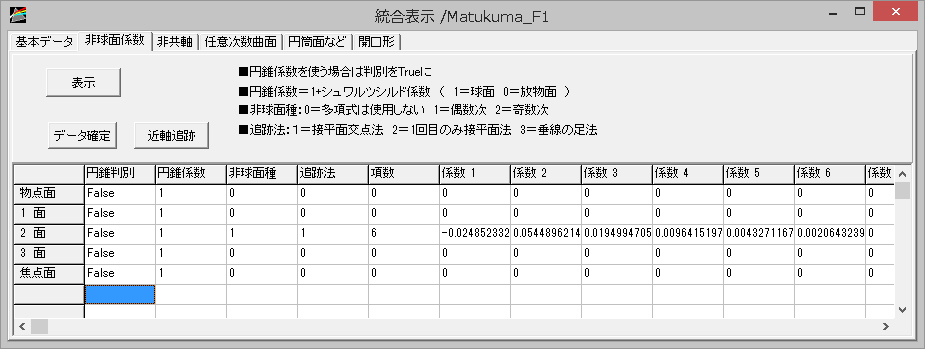


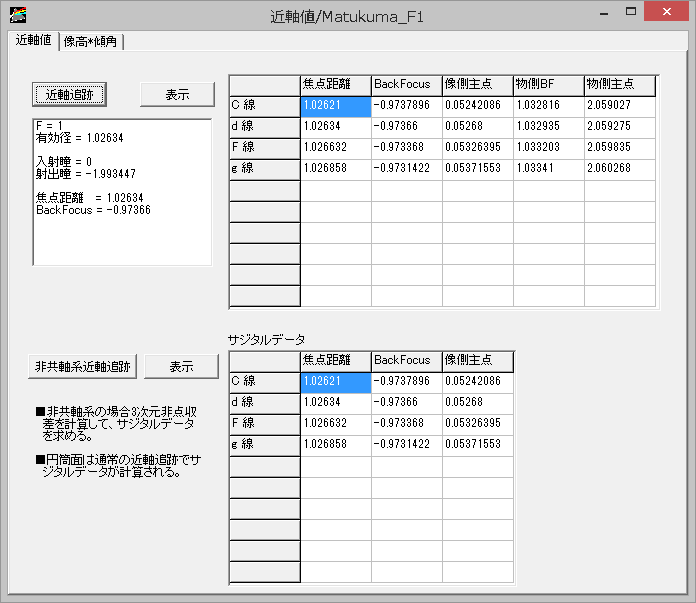
　ｆｌの欄には、文献1では164ページ表6.1、文献2では122ページ表6.1の焦点距離を入力します。ただし表は主鏡の曲率半径が２ｍ（2000ｍｍ）の場合ですので、表の数値を千分の一にして入力します。デフォルトでは表のF1.0の時の焦点距離1026.34を千分の一にした1.02634が入力されています。

　計算結果をPOPSに入力します。口径も同表から千分の一にして入力します。基本データは下記のようになります。像界は反射空間で負の屈折率です。

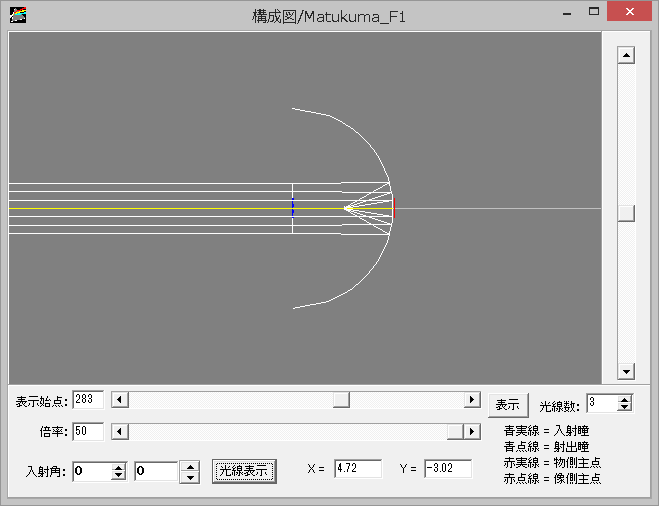


非球面種「1」追跡法「1」項数「6」として計算結果の係数を入力します。





データ確定後近軸追跡をし、データが間違いないか確認します。

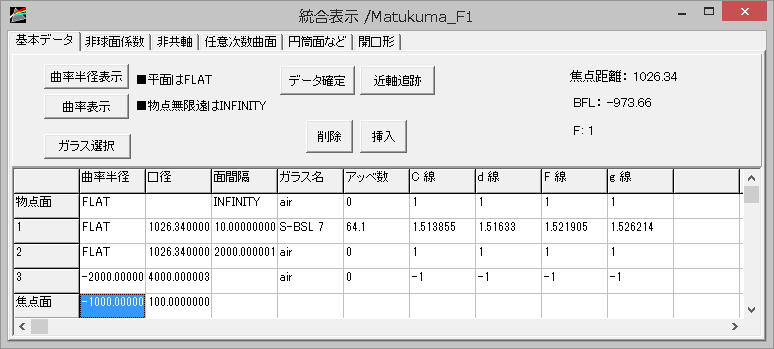


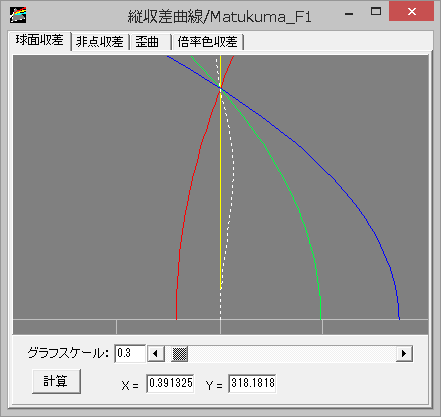
構成図はこのようになります。

メインメニューのその他からスケーリングを選択し



焦点距離ダイヤローグに1026.34と入力します。





収差曲線で確認すると、F1.0の明るさですがｄ線は完全に補正されていることがわかります。

　以上松隈健彦のシュミット補正板の係数計算公式の説明でした。